

17.評価書の補正

17. 評価書の補正

環境影響評価書の作成にあたっては、国土交通大臣の意見を勘案するとともに、環境影響評価書の記載事項について検討を加え、必要な補正を行った。また、誤字等の修正及び説明等の補足も行った。

補正前の環境影響評価書から記載事項を補正した主な事項を以下に示す。

<本編>

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
第1章			
1.2.	1-1	代表取締役社長 夏目 誠	代表取締役社長 田村 明比古
第2章			
2.1.	2-1	—	「首都圏空港の処理能力」の注釈を追加
2.2.	2-6	《表 2.2-2 工事工程》	想定する区域毎に工事工程を掲載。
2.3.	2-11	《2.3.2.滑走路別の年間発着回数》 現在の発着回数は、2016年度実績値を記載	現在の発着回数は、2018年度実績値を記載した。
第3章			
3.5	3-110	《3.5.2.複数の計画案に係る環境影響の比較の結果》	「なお、いずれの案も、運用の効率性、用地上の影響及び環境面の影響を考慮し、改変面積は極力小さくなるよう配慮しているが、地上走行距離の短い案2の方がより一層の配慮がなされていると考える。」と追記。
第4章			
4.1	4-9	《(1)防音堤・防音林などの整備》	既設の防音堤について、植栽に用いた樹種の選定の視点を追記。
第7章			
7.	7-3	《図 7-2 対象事業実施区域及びその周囲》	想定する将来の飛行コースの見直しに伴い、発着回数 50 万回時のコンターを修正。
	7-39	《図 7.1.1-16 航空機騒音測定地点(短期測定)》	図中に、NAA 測定地点の他に、茨城県測定地点を追加。
	7-57~61	《(2)航空機のエンジン試運転に伴う低周波音》	NRH 使用時の調査結果の、本文中での明示及び掲載順序の変更
	7-80、90、98~99、104~107	《(2)水質》 表中のトリクロロエチレンの環境基準	2014 年 11 月改正前及び改正後の値を併記。
	7-104~107	《(2)水質》 表中のカドミウムの環境基準	2011 年 10 月改正前及び改正後の値を併記。
	7-67~107	《(2)水質》 表中の記号の説明	表下側に「-」、「<」、「不検出」、「検出されないこと」についての注釈を追加
	7-109	《7.1.3.(1)土壌》	B 滑走路北側に成田クリーンパークが存在していることを追記。
	7-202	「千葉県における景観資源」	「対象事業実施区域及びその周囲における景観資源」
	7-202	香取市佐原伝統的建造物群保存地区	削除
	7-204	《(1)景観》	主要な眺望地点から景観資源を視認することは難しいことを追記。
7-253	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保全に関する法律」 「種の保存法」	法律名を「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」と修正。また、重複箇所を削除。	
7-253	「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」	

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
第8章			
8.	8-80	《表 8.2.10-1 (1) 景観(飛行場の存在)に係る調査、予測及び評価の手法等》	調査地域の設定の考え方を表下側に追記。
	8-83	《表 8.2.11-1(1) 人と自然との触れ合いの活動の場(飛行場の存在及び航空機の運航)に係る調査、予測及び評価の手法等》	調査地域の設定の考え方を表下側に追記。
	8-84	《表 8.2.11-1(2) 人と自然との触れ合いの活動の場(飛行場の存在及び航空機の運航)に係る調査、予測及び評価の手法等》	現地調査の調査期間等について、補足的な調査の実施時期を追記。
第10章			
10.1	10.1.1-25	《(5) 施工日及び施工時間》	「また、今後の施工に際しては、空港運用に支障しない工種は可能な限り昼間工事とするよう配慮する。」を追加。
	10.1.1-48	《表 10.1.1-19 施工工程、建設機械及び資材等運搬車両の稼働計画(東関東自動車道仮切回し)》	表中の予測対象時期の誤記修正。
	10.1.1-49	《(8)施工上の諸対策》	10章に示した環境保全措置と整合するよう、一部追記。
	10.1.2-9	「対象事業実施区域について、以下の方針で緑化を行うことを想定した。」	「対象事業実施区域について、以下の方針で緑化を行うことを想定した。既存の地形を活かした調整池の設置などを想定しているが、引き続き関係機関と協議を進め、改変面積が極力低減されるよう努める。」
	10.1.2-20	《(3)航空機発着回数》表の注釈 「※ 数値は、年間発着回数(現況は 24.6 万回/年、将来は 50 万回/年)を」	「※ 数値は、年間発着回数(現況は 24.6 万回/年、将来は 50 万回/年。いずれも貨物便を含む。)を」
	10.1.2-22～23	《図 10.1.2-9(1)～(2) 飛行コース》	現況の図に「※2016 年度時点」と追記。想定する将来の飛行コースについては、2019 年(令和元年)7月の標準飛行コースの一部変更を踏まえて見直し。
10.2	10.2.1-13	(1973 年(昭和 49 年)5 月 8 日 環境省告示第 25 号)	(1973 年(昭和 49 年)5 月 8 日 環境庁告示第 25 号)
	10.2.1-26～27	《図 10.2.1-9(1)～(2) 建設機械の稼働時間の風配図》	予測条件に使用した気象データの時間区分の説明を追記。
	10.2.1-29	《図 10.2.1-10(1)～(2) 大気安定度の出現頻度》	
	10.2.1-36～37	《表 10.2.1-19(1)～(2) 建設機械別の燃料消費量及び予測対象時期の稼働台数》 振動ローラ 3～4t	
	10.2.1-41～43 10.2.1-50～53	《(4)予測結果》	予測結果の寄与率について、本文中に説明を、表中に値を、それぞれ追記。
	10.2.2-11	「3,1875 台」	「31,875 台」
	10.2.2-34～35	《(4)予測結果》	予測結果の寄与率について、本文中に説明を、表中に値を、それぞれ追記。
	10.2.3-16	「ア)航空機」	「ア)航空機－運航モード別(離陸、上昇、進入(着陸))及びタクシーイング・アイドリング」

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
10.2.	10.2.3-16	「大気汚染物質排出量の算定方法は、」	「航空機の運航モード別(離陸、上昇、進入(着陸))及びタクシーイング・アイドリングによる大気汚染物質排出量の算定方法は、」
	10.2.3-18	《表 10.2.3-11 航空機機材クラス別の発着回数(国際線、国内線合計)》 「※ 数値は、年間発着回数(現況は 24.6 万回/年、将来は 50 万回/年)を 365 で除して日あたりの回数を算出したものである。」	「※ 機材クラス別発着回数は、現況は実績から、将来は需要予測に基づき設定しており、年間発着回数(現況は 24.6 万回/年、将来は 50 万回/年。貨物便を含む。)を 365 で除して日あたりの回数を算出したものである。」
	10.2.3-20～23	《表 10.2.3-13(1)～(4) タクシーイング・アイドリングの予測条件》	表下側に「0.00」と「-」の注釈を追記。
	10.2.3-30	「機材クラス別・運航モード別の大気汚染物質排出量は、」	「航空機の運航モード別(離陸、上昇、進入(着陸))及びタクシーイング・アイドリングによる大気汚染物質年間排出量は、」
	10.2.3-30	「大気汚染物質排出量のうち、離陸・上昇・進入(着陸)は表 10.2.3-14 に、タクシーイング・アイドリングは表 10.2.3-15 に示すとおりである。」	「大気汚染物質年間排出量のうち、運航モード別(離陸・上昇・進入(着陸))の排出量は表 10.2.3-14 に、タクシーイング・アイドリングの排出量は表 10.2.3-15 に示すとおりである。」
	10.2.3-31～34	《表 10.2.3-15(1)～(4) タクシーイング・アイドリング別の大気汚染物質年間排出量》	表中に予測対象時期及び大気汚染物質の単位を追記。
	10.2.3-32～34	《表 10.2.3-15(2)～(4) タクシーイング・アイドリング別の大気汚染物質年間排出量》	表下側に「0.00」と「-」の注釈を追記。
	10.2.3-35	「イ)APU」	「イ)航空機-APU」
	10.2.3-39	「ウ)エンジン試運転」	「ウ)航空機-エンジン試運転」
	10.2.3-39	《表 10.2.3-18 エンジン試運転の年間稼働時間》	将来の試運転稼働時間の説明を注釈に追記。
	10.2.3-50	「単位：g/km」	「単位：g/h」
	10.2.4-10	《表 10.2.4-5 大気汚染物質の排出係数》	「単位 g/km・台」を追記。
	10.2.5-12～13	《図 10.2.5-3(1)～(2) 季節別・風向別出現頻度及び平均風速》	予測条件に使用した気象データの時間区分の説明を追記。
10.2.5-26	《表 10.2.5-13 環境保全措置の検討状況》《表 10.2.5-14 環境保全措置の検討結果》工事区域への散水 「砂ぼこりが立つような強風が吹く場合には、散水により」	「施工範囲及びその周辺の環境状況を目視確認し、砂ぼこりが立つような強風が吹く場合には、散水により」	
10.3	10.3.1-4	《イ)調査日》	調査期間中の気象の状況を追記。
	10.3.1-15～17	《表 10.3.1-7(1)～(3) 建設機械の種類、音響パワーレベル(PWL)及び台数》 バックホウ 標準バケット 1.4m ³ (平積 1.0m ³) 振動ローラ 3～4t	バックホウ 山積 1.4m ³ (平積 1.0m ³) 振動ローラ 質量 3～4t
	10.3.1-15	《表 10.3.1-7(1) 建設機械の種類、音響パワーレベル(PWL)及び台数》 B 北区域：ブルドーザ 21t 級 8 台 A 区域：トレーラ 50t 1 台	B 北区域：ブルドーザ 21t 級 9 台 A 区域：トレーラ 50t 0 台
	10.3.2-4	《イ)調査日》	調査期間中の気象の状況を追記。

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
10.3.	10.3.2-33	「資材等運搬車両の走行道路は、基準等を上回っている地点があるため、表 10.3.2-11 に示す環境保全措置を講じることにより、騒音レベルの増加を最小限に留めることとする。」	「基準等を上回っている地点があることから、騒音レベルの増加を最小限に留めるため、表 10.3.2-11 に示す環境保全措置を講じ、影響の低減に努める。」
	10.3.3-12	「飛行場を利用するアクセス車両の走行道路は、基準等を上回っている地点があるため、表 10.3.2-7 に示す環境保全措置を講じることにより、騒音レベルの増加を最小限に留めることとする。」	「基準等を上回っている地点があることから、騒音レベルの増加を最小限に留めるため、表 10.3.3-7 に示す環境保全措置を講じ、影響の低減に努める。」
	10.3.4-3	《(イ)調査日》	調査期間中の気象の状況を追記。
	10.3.4-24	《表 10.3.4-10 防音壁等の設置位置》	防音壁及び防音堤の予測条件の設定について注釈に説明を追記。
	10.3.4-29～31	《図 10.3.4-13(1)～(3) 航空機騒音予測結果》	想定する将来の飛行コースの見直しに伴い、発着回数 50 万回時の予測結果を修正。
10.3.4-36	「また、飛行コースは、騒音影響範囲の拡大を最小限にすることから、将来においても変更がないものとしている。」	「また、飛行コースは、騒音影響範囲の拡大を最小限にすることから、利根川から九十九里浜までは直進上昇・直進降下をしており、これは将来においても変更がないものとしている。」	
10.4	10.4.1-2	《(イ)調査日》	調査期間中の気象の状況を追記。
	10.4.1-15	「また、飛行コースは、騒音影響範囲の拡大を最小限にすることから、将来においても変更がないものとしている。」	「また、飛行コースは、騒音影響範囲の拡大を最小限にすることから、利根川から九十九里浜までは直進上昇・直進降下をしており、これは将来においても変更がないものとしている。」
10.5	10.5.1-4	《(イ)調査日》	調査期間中の気象の状況を追記。
	10.5.1-13～15	《表 10.5.1-7(1)～(2) 建設機械の種類、基準点振動レベル (L_{10}) 及び台数》 バックホウ 標準バケット 1.4m ³ (平積 1.0m ³) 振動ローラ 3～4t	バックホウ 山積 1.4m ³ (平積 1.0m ³) 振動ローラ 質量 3～4 t
	10.5.1-13	《表 10.5.1-7(1) 建設機械の種類、基準点振動レベル (L_{10}) 及び台数》 B 北区域：ブルドーザ 21t 級 8 台	B 北区域：ブルドーザ 21t 級 9 台
	10.5.2-4	《(イ)調査日》	調査期間中の気象の状況を追記。
	10.5.2-7	「参考資料 表 2.3.2-4～表 2.3.2-11」	「参考資料 表 2.3.2-4～表 2.3.2-7」
	10.5.3-13	「飛行場を利用するアクセス車両の走行道路は、基準等を上回っている地点があるため、表 10.5.3-6 に示す環境保全措置を講じることにより、振動レベルの増加を最小限に留めることとする。」	「基準等を上回っている地点があることから、振動レベルの増加を最小限に留めるため、表 10.5.3-6 に示す環境保全措置を講じ、影響の低減に努める。」
10.6	10.6.1-4	前日の時間最大降雨量の修正 降雨時 1 回目 時間最大 1.5mm/h	前日の時間最大降雨量の修正 降雨時 1 回目 時間最大 1.0mm/h
	10.6.1-4、 10.6.1-9	当日の時間最大降雨量の修正 降雨時 1 回目 時間最大 3mm/h、 降雨時 2 回目 時間最大 6mm/h	当日の時間最大降雨量の修正 降雨時 1 回目 時間最大 2.5mm/h、 降雨時 2 回目 時間最大 5.5mm/h
	10.6.1-36	《表 10.6.1-11 区域面積及び造成面積》	合流後予測地点に関する補足説明を注釈に追加。
	10.6.1-37	《図 10.6.1-11 予測流域区分図》	一部地点の追加。

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
10.6	10.6.1-43、 10.6.1-45、 10.6.1-47	《表 10.6.1-14 予測結果(工事の実施に伴う水の濁り(日常的な降雨の場合))》 《表 10.6.1-15 予測結果(工事の実施に伴う水の濁り(5年確率降雨の場合))》 《表 10.6.1-16 予測結果(工事の実施に伴う水の濁り(特異時降雨の場合))》	現況調査結果 SS の濃度 変動幅の最小値の誤記を修正。
	10.6.1-49	《表 10.6.1-18 環境保全措置の検討結果》「河川放流水の濁度モニタリング」	追加的な対策を講じる場合の判断基準について追記。
	10.6.2-22	《表 10.6.2-16 防除氷剤使用期間中の降水量》	注釈に各月の降水量の総和を6ヶ月で除しても表中の平均値にはならない理由を追記。
	10.6.2-24、 10.6.2-25	環境保全措置の種類のうち、B滑走路・C滑走路周辺への貯留池等の整備検討	環境保全措置の種類及び内容の一部修正。
	10.6.2-24	《2) 検討結果の整理》	「なお、ディアイシング廃液処理施設で処理された水は、現在と同様に中水として空港施設で利用し、下水道に放流することを想定しているため、環境保全措置の実施により雨水排水の放流先河川への影響が低減するものと考えて。」を追加。
10.7	10.7.1-22, 25	《表 10.7.1-15 観測井戸諸元》 《表 10.7.1-16 観測井戸諸元》	表中の値が、深度と標高のどちらか分かるよう修正。
	10.7.1-23~24 10.7.1-26~27	《図 10.7.1-7 地下水位の変動状況》 《図 10.7.1-8 現地調査結果(地下水位)》	地下水位の値は標高であることを記載。
10.8	10.8.1-28 10.8.1-33 10.8.1-100 10.8.1-101 10.8.1-106 10.8.1-108 10.8.1-109~ 110	《4) 調査結果》 確認種一覧表	注釈に外来種の記号凡例を追記。また一部種について外来種としての取り扱いを再整理し、注釈に概要を追記。
	10.8.1-234	《4) 予測結果 ウ. 航空機の運航》	新設されるC滑走路の南側の谷津環境でのバードストライク対策を追記。
10.9	10.9.1-54 10.9.1-73	《(2) 予測》	飛行場の存在による影響について、予測項目に「緑地面積の変化」を追加し、予測結果を追記。
	10.9.1-69~ 70	《表 10.9.1-39 植物群落の面積の変化の状況》	現況と将来の面積の変化量を追加。
10.10	10.10.1-23	《4) 調査結果》	特定外来生物及び生態系被害防止外来種についての調査結果を追記。
	10.10.1-73, 10.10.1-91~ 92	《(2) 予測》	飛行場の存在による影響について、予測項目に「特定外来生物及び生態系被害防止外来種の生息又は生育状況の変化」を追加し、予測結果を追記。
	10.10.1-87	《表 10.10.1-58 樹林性チョウ類の生息環境の変化》	誤記の修正
10.11	10.11.1-2 10.11.1-8 10.11.1-29	《図 10.11.1-1 景観調査地域、調査地点位置図》 《表 10.11.1-6(3) 現地調査結果(主要な眺望点及び眺望景観の状況: さくらの山)》 《図 10.11.1-3 主要な眺望点と対象事業実施区域の重ね合わせ位置図》	「No.3 さくらの山」の眺望方向について、記号の向きを修正。
	10.11.1-5	「成田空港のみが視認可能な景観資源であった。」	「成田空港のみが視認可能な景観資源であったため、成田空港を本事業における景観資源として扱った。」

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
10.11	10.11.1-28 10.11.1-33 10.11.1-64	《表 10.11.1-10 予測結果(景観資源の変化)》 《表 10.11.1-11 予測結果の概要(主要な眺望景観の変化)》 《表 10.11.1-27 講じる環境保全措置》	表下側に、予測結果欄の記号の凡例を追記
	10.11.1-29	《図 10.11.1-3 主要な眺望点と対象事業実施区域の重ね合わせ位置図》	新たに空港となる区域のうち A 区域、B 区域、C 区域の位置を明示
10.12	10.12.1-1	「調査地点は、表 10.12.1-2 及び図 10.12.1-1 に示す 17 地点とした。」	「調査地点は、文献その他の資料調査で確認された 52 地点のうち、現地踏査及びヒアリングによって「自然観察」といった主要な人と自然との触れ合いの活動がなされている地点と判断された、表 10.12.1-2 及び図 10.12.1-1 に示す 17 地点とした。」
	10.12.1-2	《表 10.12.1-2 調査地点(人と自然との触れ合いの活動の場)》	注釈に坂田城跡梅林の調査時期の説明を追加。
	10.12.1-7 10.12.1-30	《表 10.12.1-4 現地調査結果の概況》 《表 10.12.1-24 調査結果、予測結果の概要》	注釈に年間最大利用者数の状況の、区分と人数についての説明を追加。
	10.12.1-30	《表 10.12.1-24 調査結果、予測結果の概要》	表下側に、予測結果欄の記号の凡例を追記。
	10.12.1-31～ 39	《表 10.12.1-31、34～39 予測結果》	参照した将来交通量の推計結果の記載箇所について、補足説明を追加。
	10.12.1-32	《表 10.12.1-26 予測結果(里山遊歩道)》 「場外放水路の利用者のほとんどが」	「里山遊歩道の利用者のほとんどが」。
	10.12.1-41～ 44	《表 10.12.1-38～41 予測結果》	最大騒音レベルの変化の程度の推計方法について、注釈に説明と模式図を追加。
	10.12.1-46	「子供を対象とした農業体験イベントを継続的に実施する。」	「子供を対象とした農業体験イベントを継続的に実施する。なお、既存施設の整備、活用の際は、関係する市町、地域団体、地域住民等の外部ステークホルダーと可能な限り連携をして取り組む。」
10.12.1-46	「「No.11 芝山湧水の里」については、事業の実施により場が消失するものの、付近に湧水施設を整備して、活動が継続的に実施できるよう配慮する。」	「「No.11 芝山湧水の里」については、事業の実施により場が消失するものの、類似施設の新設により活動が継続的に実施できるよう検討を行う。」	
10.13	10.13.1-23	《表 10.13.1-23 予測結果(樹木の伐採による建設発生木材の発生量等)》 発生量(建設発生木材(伐採樹木): 138,400、マダケ群落: 7,200、モウソウチク群落: 5,300) 最終処分量(建設発生木材(伐採樹木): 3,045)	発生量(建設発生木材(伐採樹木): 142,600、マダケ群落: 10,400、モウソウチク群落: 6,300) 最終処分量(建設発生木材(伐採樹木): 3,137)
	10.13.1-26	《表 10.13.1-24 造成等の施工による建設工事に伴う副産物の発生量等の予測結果》 発生量(木くず・建設発生木材: 142,200、計: 507,500) 最終処分量(木くず・建設発生木材: 3,273、計: 5,640)	発生量(木くず・建設発生木材: 146,400、計: 511,700) 最終処分量(木くず・建設発生木材: 3,365、計: 5,732)

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
10.13	10.13.1-29	《表 10.13.1-27 副産物の再資源化等率と目標値との比較結果》 発生量(木くず・建設発生木材:142,200、建設副産物全体:507,500) 最終処分量(木くず・建設発生木材:3,273、建設副産物全体:5,640)	発生量(木くず・建設発生木材:146,400、建設副産物全体:511,700) 最終処分量(木くず・建設発生木材:3,365、建設副産物全体:5,732)
10.14	10.14.1-7	《表 10.14.1-8 資材等運搬車両の延走行台数》 延走行台数(大型車類:602,700、小型車類:298,000)	延走行台数(大型車類:601,700、小型車類:294,400)
	10.14.1-8	《表 10.14.1-11 予測結果(資材等運搬車両の運行による温室効果ガス排出量)》 延走行台数(大型車類:602,700、小型車類:298,000) 温室効果ガス排出量(大型車類:17,300、小型車類:1,700、合計:19,000)	延走行台数(大型車類:601,700、小型車類:294,400) 温室効果ガス排出量(大型車類:17,200、小型車類:1,700、合計:18,900)
	10.14.2-22	「アイドリング時間(36分/台)から平均走行距離(4,800m)を算定した。」	「アイドリング時間(36分/台)から平均走行距離(4,800m)を算定した。なお、アイドリング時間は NAA 資料によるものである。」
第 11 章			
11.	11-9	「砂ぼこりが立つような強風が吹く場合には、」	「施工範囲及びその周辺の環境状況を目視確認し、砂ぼこりが立つような強風が吹く場合には、」
	11-19	防除氷剤の回収・処理を行うため、貯留池等の整備を図る。また、貯留池や滞水池を整備し、ディアイシング廃液処理施設で処理を行うことを検討する。	B 滑走路・C 滑走路及びその周囲に落下する防除氷剤については、貯留池等の整備により可能な限り回収等を行い、その処理を行う。
	11-28	既に NAA が空港周辺に整備している散策路等の既存施設の整備、活用を推進する	既に NAA が空港周辺に整備している散策路等の既存施設の整備、活用を推進する。なお、既存施設の整備、活用には、関係する市町、地域団体、地域住民等の外部ステークホルダーと可能な限り連携をして取り組む。
第 12 章			
12.	12-8	《表 12.2-3(2) 水文環境に係る事後調査の内容(地下水位)》 工事実施期間から工事の完了後 1 年目まで	工事着手の約 1 年前から工事の完了後 1 年目まで
	12-9	《表 12.2-3(4) 水文環境に係る事後調査の内容(湧水)》 工事着手から工事の完了後 1 年目まで	工事着手の約 1 年前から工事の完了後 1 年目まで
	12-18	《表 12.2-6(2) 生態系に係る事後調査の内容(谷津機能を維持した調整池の設置、谷津環境の整備・維持管理)》	調査地域に「※ミソゴイは営巣分布の全容把握に至っていないことから上記を含む対象事業実施区域及びその周辺を調査地域に設定」を追加。
第 13 章			
13.	13-2~11	《(2) 環境要素ごとの評価結果のまとめ》	環境要素ごとの評価結果のまとめを追記。
	13-13~46	《表 13-1(1) 調査、予測及び評価の結果の概要》	第 10 章で修正・追加した事項を反映させた。

補正した項目	(頁)	補正前の評価書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	補正後の評価書(本書)での記載事項
第15章			
15.	タイトル	「環境影響評価準備書との相違の概要」	「環境影響評価準備書と補正前の環境影響評価書との相違の概要」
用語解説			
—	用語解説-1	「首都圏空港の処理能力」	解説を追加。

<参考資料>

補正した項目	(頁)	補正前評価書での記載事項 (《 》は記載箇所を示す)	補正評価書での記載事項
参考資料			
参考 1.4.	参考 1.4-3	《図 1.4-1 航空機騒音予測結果》	想定する将来の飛行コースの見直しに伴い、発着回数 50 万回時の予測結果を修正。
参考 1.6.	参考 1.6-3	《航空機騒音の環境基準の達成状況の改善に向けた施策等ロードマップ(1/2)》	騒音環境の状況(屋外)の将来目標等を修正。
参考 1.7.	参考 1.7-1～11	《成田クリーンパークの取扱い》	2019 年 4 月開催の第 3 回検討委員会での検討結果を反映
参考 2.3.	参考 2.3.1-1	《表 2.3.1-1 環境騒音の調査概要》	調査期間中の気象の状況について追記。
	参考 2.3.2-1	《表 2.3.2-1 道路交通騒音の調査概要》	
	参考 2.3.3-1	《表 2.3.3-1 航空機騒音の調査概要》	
参考 2.4	参考 2.4.1-1	《表 2.4.1 1 低周波音の調査概要》	
参考 2.5.	参考 2.5.1-1	《表 2.5.1-1 環境振動の調査概要》	
	参考 2.5.2-1	《表 2.5.2-1 道路交通振動の調査概要》	
参考 2.11.	参考 2.11-2～3	《表 2.11-3 文献その他の資料調査結果(眺望点)》 《表 2.11-4 文献その他の資料調査結果(景観資源)》	該当する文献名を追記。
	参考 2.11-3	《表 2.11-5 現地踏査結果(眺望点)》	現地踏査時の利用状況を記載した表を追加。
参考 2.12.	参考 2.12-2～3	《表 2.12-3 文献その他の資料調査結果(人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況)》	以下の地点を追加。 ・千葉県サイクリングロード(409 佐原我孫子自転車道線) ・マリンピアくりやまがわ ・屋形海水浴場 ・坂田城跡梅林
参考 3.1.	参考 3.1-1～13	《谷津環境の整備・維持管理候補地の自然環境の概要》	各候補地の概要、植生割合、確認された重要な種を追記。
参考 3.3.	参考 3.3-1～6	《保全対象種の主要な生息環境及びその消失量》	保全対象種の主要な生息環境及びその消失量の推定結果を追記。
図面集	目次	—	掲載ページの修正

